

2020 年 5 月吉日

会 員 各 位

ユニシス研究会
静 岡 支 部

2020 年度『静岡支部研究活動』メンバー募集のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素はユニシス研究会活動にご協力、ご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大により影響を受けられ、様々な制限の中、日々の働き方にも変化があった事と存じます。

ユニシス研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題やこれからの I T を駆使した新たな働き方、A I 活用などをテーマに、会員同士や日本ユニシスグループ社員との情報・意見交換の場、また相互研鑽の場として、研究活動を推進しています。

今年度の活動は、新しい試みとして、WEB 会議を主体とした活動を予定しています。従来の開催方法とは異なる運営となりますが、新たな活動形態へのチャレンジ、会議体への移動時間削減、テレワークによる参加等この状況をポジティブに活用していきたいと思います。

ビジネスヒント発掘や企業の枠を超えた新しい交流の場、人材育成の場としてユニシス研究会活動をご活用いただきたく、是非とも多数のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

【 添付資料 】

- 2020 年度研究活動テーマ案

「静岡支部研究活動」メンバー募集・運営要項

1. 参加資格：

ユニシス研究会会員企業（会員企業の方であればどなたでも参加いただけます）

2. 研究テーマ案：

※テーマ案・例は別紙記載いたしますが、活動開始後メンバー間で協議のうえ決定いただきます。

3. 参加費：

- 昨年度までのリーダー、サブリーダー対象の宿泊型サマースクールは実施せず、インフラ環境の提供、発表会開催関連費用として、本年度に限り特別価格として、研究活動費 1 企業あたり通常¥20,000 を ¥10,000 とさせていただきます。
- 参加人数に係わらず、1 会員企業あたり今年度に限り¥10,000 とします。
- 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へ参加費用をご請求させていただきます。
- その他交通費・旅費等は、参加会員の負担とさせていただきます。

4. 活動運営について：

- 参加メンバー4～6 名程度で 1 グループを構成します。
- 研究活動の企画・運営は参加メンバーの自主運営とします。
- 構成メンバーの中から、「リーダー」「サブリーダー」を互選する事とします。
- 活動には、日本ユニシスグループより選出されたテクニカル・アドバイザーが参加し、研究活動を支援します。
- 研究成果は、「研究活動発表会」や「全国カンファレンス」等で発表して頂く事があります。
- 特に優れた成果には、「エッカード賞」やその他入賞制度の受賞候補として推薦されます。
- ご報告（発表資料含む）いただいた研究活動成果（研究活動活動報告書、プレゼン資料等）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作者はユニシス研究会が情報配信する機関誌や WEB サイトにおいて、著作者の研究活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含む）をユニシス研究会に無償で許諾するものとします。
- ※ 参加人数が少ない場合、関東支部の活動に参加する事が可能です。但し、関東のグループの人数により、ご希望がかなわない場合もある事をご了承ください。

5. 活動期間と会合回数：

- 活動期間は本年 6 月から翌年 2 月末までとします。（※発表会を除く）
- 期間中、月 1 ～ 2 回の会合（半日）を持ちますが、詳細は別途グループ運営の中で決定します。
- 9 月頃を目途に中間報告を実施していただきます。
- 来年 1 月下旬に活動成果を「研究活動報告書」として提出していただきます。
- ※研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、汎用性、有効性、独創性、独自性などの面を考慮して査読審査をさせていただきます。
- 来年、3 月 5 日（金）に「研究活動成果発表会」として発表をしていただきます。

6. WEB 会議開催について：

■ご参考までに Office365 未導入の方の Teams 会議参加方法をご案内いたします。

Teams 会議参加方法（Windows 編、Android 編、iOS 編）

https://www.yuni-ken.gr.jp/whatsnew/data/ms_teams_guides_2020.zip

7. 申込方法：

添付資料の「参加申込書」にご記入の上、**6月12日(金)迄にFAX**にてお送り下さい。

また、ご希望のテーマを第1希望、第2希望をご記入ください。

8. お問い合わせ先：

日本ユニシス（株）ユニシス研究会静岡支部事務局 河原

〒420-0851 静岡市葵区黒金町 11-7 大樹生命静岡駅前ビル 4F

E-mail szk-box@ml.unisys.co.jp

TEL 050-3132-2914

FAX 054-252-7945

9. 【ご参考】過去の研究活動テーマ

2019 年度	高齢者を運転事故から守る ～高齢者に寄り添う MaaS のこれから～
2018 年度	プログラミングを学ぼう ～お父さん、お母さん、子どもに負けないで！～
2017 年度	群雄割拠の地方創生戦国時代！ ～いずっちより AI（愛）をこめて・・・～
2016 年度	子育て夫婦総活躍のための、やさしい方法 ～ふたりのギャップを解消します～
2015 年度	No Sound, No Work ～音が変わる職場 音による業務効率向上～
2014 年度	キープワーキングに向けたセルフマネジメント入門 ～3 大休暇制度を活用してあきらめない働き女子～

以上

ユニシス研究会静岡支部事務局 行

FAX : 0 5 4 - 2 5 2 - 7 9 4 5

ユニシス研究会「静岡支部研究活動」参加申込書

■【個人情報の取り扱いについて】

ご入力いただくお客様の個人情報は、日本ユニシス株式会社、並びに当社のグループ企業、及びユニシス研究会が、1) 本セミナーに関する連絡・確認、2) 当社および当社のグループ企業等からの製品・サービスに関する情報提供、イベント・セミナー等のご案内及びマーケティングの目的で利用させていただきます。
ご入力いただいたお客様の個人情報については、当社の「個人情報保護基本方針」に従い、厳正に取扱います。なお、個人情報の開示、訂正、削除、情報提供の停止等のお申し出、その他ご質問がございましたら、下記のお問合せ先までご連絡いただくか、当社ホームページからお申し出ください。また、当社グループ企業への個人情報の提供と、各社の個人情報保護方針については、下記リンク先よりご覧ください。

ー当社グループ企業への個人情報の提供について https://www.unisys.co.jp/privacy/u_group.html#1

ー日本ユニシスグループ企業 各社個人情報保護方針 <https://www.unisys.co.jp/com/group.html>

ーユニシス研究会 個人情報保護方針 <https://www.yuni-ken.gr.jp/privacy.html>

以上の個人情報に関する取扱いにご同意いただけましたら、次の「同意する」にチェックをお願いします。

【個人情報管理者】ユニシス研究会事務局 事務局長 中村 能也

☐ 同意する

【個人情報の問合せ窓口】ユニシス研究会静岡支部事務局

〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町 11-7 大樹生命静岡駅前ビル 電子メール : szk-box@ml.unisys.co.jp

TEL054-272-4711

FAX : 054-252-7945

■【ご参加者】 ※複数名参加も可能です（3名以上ご参加の場合は本紙をコピーの上ご利用下さい。）

会 員 名			
電話番号	()		
FAX 番号	()		
フリガナ 参加者名		所 属 役職名	
メールアドレス			
希望テーマ	①	②	
フリガナ 参加者名		所 属 役職名	
メールアドレス			
希望テーマ	①	②	

	キーワード	募集対象	テーマタイトル(案)	活動内容(案)
1	パンデミック	ユーザー企業の 情報システム部門	パンデミック発生！その時IT部門 はどうする？	2020年は新型コロナウイルス感染症の対策として、時差通勤や在宅勤務を行うよう な要請が政府からも推奨されているが、いざ行おうとすると、企業によってはPCをシン ククライアント化していないために在宅勤務が出来なかったり、社内と社外で利用回線 が異なるため、社員全員が社外でPC端末を使うとネットワーク的に問題があるなど、 想定外の課題が発生し、速やかに対処できない企業も出てくる。 IT部門として、普段からどういう準備を進め、発生した時にはどのような事を行うの か、また将来、IoTなどうまく活用するアイデアがないかなど、IT目線で探求する(オリ ンピックや万博のような話を絡めても可)。
2	5G	ユーザー企業の 情報システム部門 企画部門	5G／ローカル5Gで社会がどう変 化するか、5G環境を活用した新た なサービス、ビジネスの創出	最近、5G／ローカル5Gの実証実験が各種分野で行われている。 5Gは、次世代の通信インフラとして、「高速大容量」、「高信頼・低遅延通信」、「多数 同時接続」という3つの特徴を軸に、社会に大きな技術革新をもたらすといわれてい る。 中でも、ローカル5Gは、その利用局面もエンターテイメント、医療等多分野にわたり今 後、大きな展開が期待できる。 5G／ローカル5Gでインフラを含めて社会の変化について探求し、新たなサービスや ビジネスを創出する。
3	サブスクリプション	ユーザー企業の 情報システム部門	サブスクリプション型ビジネスを考 える	ソフトウェアや音楽、動画などデジタルサービスでは当たり前となっている「サブスクリ プション型ビジネス」であるが、既存のビジネスにおいてもデジタルトランスフォーメー ションの波を受けて大きく変わろうとしている。この”必要に応じて必要な量だけの サービスを提供する”ビジネスモデルに代わるためにはどのような仕組みが必要にな るか、どのように変えなくてはいけないかをを研究する。
4	eスポーツ	I T 企画部門の管理 者・担当者、事業部門	eスポーツによる地域創生	東京オリンピック開催を控え、新たなスポーツとして注目されている「eスポーツ」。異 業種参入などこれから大きなビジネスチャンスになっていく分野として注目されている 「eスポーツ」をテーマに、具体的に分野を取り上げて実現までに至るアイデアを研 究する。
5	キャッシュレス	IT企業のSE ユーザー企業の情報シ ステム部門	XXペイ社会に移行するには	日本のキャッシュレス化は世界の水準から大きく後れを取る。2019年時点でも25％ 前後という統計結果も出ている。これは中国の65％や韓国の90％超などと比較する と著しく低い。貨幣の信頼性の問題も絡むが、販売物流ビジネスのスマート化を図る には非常に重要なソリューションである。昨今各社が競ってサービスを打ち出している 「何とかPay」は、少々乱立気味ではあるが、これらのサービスの特徴を分析し、日本 のキャッシュレス化を推進するためのアイデアを探求する。
6	AI	情報システム部門 企画部門、事業部門 業務部門	人工知能を活用した企業内にお けるデジタルトランスフォーメーショ ン	データと人工知能を活用した、業務の生産性向上や省人化を始めとする、社会課題 を解決するサービス創出について、調査・検証を通じて、次業務への適用や活用に 向けた提言や実証を行う。 画像認識や音声認識等の活用事例で深層学習への注目が拡がる中、要素技術や ツールに関する情報は増えてきているが、深層学習を適用する際のプロセスについ ては情報が少なく、担当者のスキルやAIベンチャー等の専門家に依存するところが 大きい。そこで深層学習の業務適用に向け、必要なプロセスや手順等のワークフロー について取りまとめる。
7	音声認識	I T 企画部門の管理 者・担当者	音声認識技術を活用したビジ ネスの創出	A I アシスタント機能を搭載するスマートスピーカーが急速に普及し注目さ れている。 「音声認識技術」の最新動向や活用事例について調査し、業務効率化への活 用や新たなビジネスの方向性について研究する。
8	データの利活用・ デジタル人材の育成	情報システム部門 事業部門 人材育成部門	企業内・外に存在する データを組み合わせて、 新ビジネスについて考える	内閣府が提唱するSociety5.0実現に向けて、PDS(Personal Data Store)、情報銀 行、データ取引市場という新たなデータ流通の仕組み・データ利活用が活性化してき ており、既存の企業内データ、オープンデータや新たに収集できるデータを組み合わ せて活用することで、新ビジネスの創出や社会課題の解決などを検討する。 またビッグデータ活用におけるデータサイエンティストやデータアナリストなどのデジタ ル人材育成の重要性が高まっています。それら人材育成における課題や育成方法に ついて調査・検討する。
9	品質管理 (プロジェクト管理)	ユーザー企業の 情報システム部門	結構どこにでもある「動かないコン ピュータ」問題 我々はなぜ同じことを繰り返してし まうのか？再発防止はできないの か？ 苦戦プロジェクトから学ぶ品質管 理について研究する。	昨今、複雑で高度なシステム化案件が増える中、日経コンピュータ誌の記事「動かない コンピュータ」でのできごとは、まさに他人事ではないと感じている。どこの会社でも 動かないまでも、相当苦戦したITプロジェクトがあると思われる。そこで、それぞれの 会社から過去の苦戦したITプロジェクトの分析結果を寄せ集め、今後同じような苦労 や失敗を繰り返さないために「教訓集(解説含む)」を作る。例えば、「ストコン開発を なめると大苦戦」、「プロジェクトの期間が長すぎると迷走する」、など。 真の原因を簡素なメッセージ化するために、問題分析手法、失敗学(上位概念化)な どの手法を学ぶ機会にもなると良い。
10	セキュリティ	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革における企業のセキュ リティ対策	企業に働き方改革が求められるようになり、様々な機器、ワークスタイルで時間、場所 に囚われずに仕事ができるような環境が整ってきている。その一方で、企業の機密情 報や個人情報などが漏えいする危険性は高くなる。このようなワークスタイルの変革 の中で企業が実施すべきセキュリティ対策について研究する。
11	高齢者活用	ユーザー企業の 情報システム部門、人事 総務部門	高齢者(再雇用)の有効活用	各企業は、再雇用により高齢者社員をどう活用するか試行錯誤しながら取り組んでい る。今後定年延長などにより益々人数が増加していく環境において、会社、高齢者社 員、現役社員すべてがハッピーになる活用策を研究する。(IT業界)
12	働き方改革	ユーザー企業の 情報システム部門	働き方改革へのIT の果たす役割	ワークスタイル変革の流れの中で、2020東京オリンピック開会式を「テレワークデー 」と定め、業務実態に合わせて、在宅勤務／モバイルワーク／サテライトオフィス勤務 等のテレワーク勤務を推奨するなど、「働き方改革」は早期実現が必要な重要課題 である。 現在はスマートフォンなどのモバイルデバイスや最近ではウェアラブル端末やAIス ピーカーなど身近になりつつあるデバイスの変化にも対応しそれらを利用した働き方 の見直しも想定される。 又、総務省も企業が働き方改革を進める中で、ビジネス用途のチャットツールを導入 する企業は増加していくと予想しており、今後も注視していく必要があると展望してい る。 そんな中、活用シーンがどの様に変化し、そこでITがどのような役割を果たすことがで きるのかについて探求する。